

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太
---------------	---	-------	-------------------

配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
------	-----	-----	---	-----	----	-----	----	------	------

題目	レナル/ディドロ『アメリカの革命』を読む～18世紀末フランスとアメリカの動揺
----	--

**[授業の概要・目的]**

18世紀フランスを代表する哲学者・作家ドニ・ディドロ(1713-1784)は、1760年代後半から最晩年にかけて、同時代の政治について多くの考察を残している。そのうち特に注目に値するのは、ディドロがギヨーム＝トマ・レナル(1713-1797)の『両インド史』(1770, 1774, 1780の三版)に匿名で寄せた、数々の政治的雄弁の断章である。『両インド史』は、正式のタイトルを『両インドにおけるヨーロッパ人の植民と商業についての哲学的・政治的歴史』といい、大航海時代以来、アメリカ合州国独立(1776年独立宣言)までの「ヨーロッパの拡大」を描く歴史書であった。出版当時、各国語に翻訳され、ヨーロッパ・アメリカで広く流布したこの歴史書のなかで、ディドロは植民地化の暴力、アフリカ人奴隷制、商業的に繁栄するヨーロッパ内部の専制政治などを批判するとともに、アメリカ合州国の独立への熱烈な支持を表明していた。そのディドロの雄弁は今日、往々にして、フランス革命に先駆ける啓蒙の時代の哲学者のもっとも果敢な政治的批判とも目されている。

本講義では、1780年刊の『両インド史』第18篇末尾に収められたアメリカ合州国の独立をめぐる叙述を精読し、解説する。該当箇所は、抜粋されて『アメリカの革命』という独立の書物として刊行され、フランス語と英語で流通した部分にあたる。その際、この同時代史を通じて、18世紀末のヨーロッパと世界の関係についての歴史を知ること、さらにレナルやディドロが、どのような政治的・思想的論拠で「アメリカの革命」を擁護していたかを知ることが、第一の関心事である。また、18世紀末の大西洋両岸の政治的動揺に最も接近しながら、モンテスキューやルソーに比べれば決してよく知られているとはいえないディドロ晩年の政治思想を、この哲学者自身の行程と『両インド史』のコンテクストに即して理解することがもうひとつの関心事である。さらにフランス語・英語で、歴史的でもあり、ジャーナリスティックでもあり、哲学的でもあり、政治的でもあり、また文学的でもある18世紀末の文献を読解する力をつけることを目標にする。

**[授業計画と内容]**

授業では、レナル/ディドロの『アメリカの革命』を、フランス語あるいは英語の原典に沿って読み進めながら、論点を解説していく。その際、授業参加者には、順番に一、二頁程度の翻訳を担当してもらうことになる。

講義にあたっては、歴史的・思想史的な観点から、18世紀のヨーロッパにとって世紀初め以来の植民地通商の拡大が持った意味、1756年から1763年の七年戦争がもたらしたヨーロッパ国際関係の動揺と、そのなかで北米植民地のイギリス本国への叛乱が持った意味を明らかにするように努める。その際、「新大陸」アメリカの革命と、フランスをはじめとする「旧大陸」の君主政の現状のコントラストがとくに注目に値する。この第三の論点は、現代ではたとえばハナ・アーレントの『革命について』が展開したような、アメリカの「政治的革命」とフランスの「社会的革命」の対比論にまで通ずる、政治史・政治思想史上の問題を孕んでいる。

また、ディドロの政治思想の理解という観点からは、1770年代のディドロの著作、とくに『両インド史』初版・第二版との対比や、第三版の他の断章との対比、トマス・ペインをはじめとする同時代のイギリス帝国内のアメリカ独立支持者たちの議論との対比(ディドロはペインの『コモン・センス』などを、自由に編纂しながら自分の考察のなかに織り込んでいる)、モンテスキュー、ルソー、フィジオクラット(重農主義者)など、同時代のフランスの政治論・政治経済論との対比に留意して解説を行なう。

## フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

原典の読解にあたっては、言われていることの内容のみならず、きわめて現代的なフィクションの書き手でもあったデイドロのレトリックの形式にも十分に注意を払う。

### 【履修要件】

フランス語ないし英語で、原典資料を読む意欲のある者。

### 【成績評価の方法・基準】

評価は授業への出席・発表・レポートに基づいておこなう。

### 【教科書】

Guillaume-Thomas Raynal 『Revolution de l'Amerique』 (P. F. Gosse fils, 1781など) (仏語版。コピーは授業中に配布。)

Guillaume-Thomas Raynal 『The revolution of America』 (L. Davis, 1781など) (英語版。コピーは授業中に配布。)

仏語版・英語版ともに、附属図書館のデータベースでPDFファイルが入手可能。

### 【参考書等】

(参考書)

ギヨーム＝トマ・レーナル 『両インド史』 (法政大学出版局) (現在刊行中の大津真作訳 『両インド史』 日本語版。ただし「アメリカの革命」該当箇所は未刊行。)

アーレント、ハンナ 『革命について』 (ちくま学芸文庫) (志水速雄訳)

ネグリ、アントニオ 『構成的権力』 (松籟社) (杉村昌昭・斎藤悦則訳)

参考文献は購入の必要はありません。他にも適宜授業中に紹介します。

### (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。